

～新しい命の誕生～

能代西高の畜舎で11月16日未明に、黒毛和種の子牛1頭が生まれました。西高での子牛の誕生は昨年9月以来で、今回は母牛の「いちか」に今年1月下旬に人工授精を行い、2ヶ月後に妊娠を確認したそうです。出産予定日より少し遅れましたが、無事子牛が誕生しました。母牛は生まれた我が子の体をなめたり、上手に乳を飲ませたり、立派なお母さんをしています。また、子牛もすくすく成長し、牛舎の中を元気よく走りまわっています。



↑「いちか」と「もみじ」

能代西高は2021年4月に統合する予定で、統合後は畜産を行わないため、同校での子牛の誕生は最後となります。生徒らは牛舎を訪れるなどして、能代西高最後の子牛の誕生を喜んでいます。

気になる名前ですが、生物資源系列の生徒から公募し、その中で気に入った名前に投票する形で決められました。秋に生まれたということで「もみじ」という名前に決定しました。

～ふるさとの食文化を学ぶ～

能代市では次世代を担う学生を対象に、ふるさとの豊かな食文化を学び、継承することを目的に食育セミナー事業を行っています。

12月3日には、能代市の働く婦人の家で調理体験が開かれ、農業クラブに所属している加藤未衣奈さんと大森紅華さんが参加しました。この日は、「だまこ鍋」と「白菜のつけもの」を作りました。能代山本生活研究グループ協議会の石川テイ子さんが講師となり、今まで培ってきた食文化や知恵などを教えてくれました。

作業は、具材を切る作業から味付けまで行い、加藤さんは「鶏肉をきれいに切るのが大変だった」、大森さんは「ごぼうのさがきが難しかった」と悪戦苦闘しながらも最後にはおいしい「だまこ鍋」ができました。

今回の体験を通して、加藤さんは「普段家では料理をする機会がないけど、具材の切り方や味付けなどを学ぶことができました」、また大森さんは「地元能代の食材を使った料理をこれから作ってみたい」と話してくれました。

